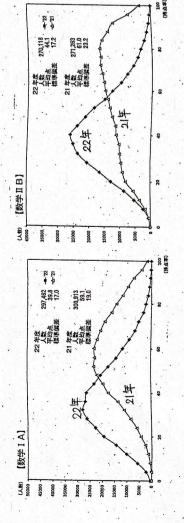
科目別 得点分布グラフから見た大学入学共通テスト

2022 年度第2回大学入学共通テストと2021年度第1回大学入学共通テストとの比較

2年5組担任

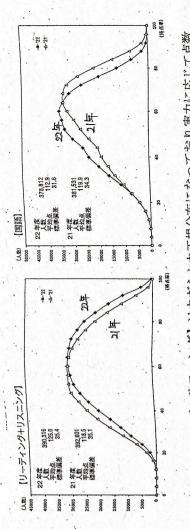
大学入試センターは 1.月 21 日、2022 年度共通テストの平均点を公表。21 日時点で「数学 I・A」「数学 I」「日本史 B」「生物基礎」「化学」「生物」「フランス語」の7 科目が、前身の大学入試センター試験を含め、過去最低点を下回っている。

このように本年は、例年になく厳しい結果が出ているが、ほぼ例年通りの平均点だった 昨年の大学入試共通テストと比較してみた。(以下は397,272人のデーターから作成された 『共通テストリサーチ』河合塾を用いた。)



【数学 I A】は最も受験生が衝撃を受けた試験だった。22 年度の平均点は39.8 点、21 年度平均点は59.1 点。非常に難易度が高い試験だったのは、得点分布グラフを見ると一目瞭然である。21 年度に比べて、22 年度は成績上位者が著しく少ない。

【数学 IIB】も受験生が衝撃を受けた試験だった。22 年度の平均点は 44.1 点、21 年度平均点は 61.0 点。数学 IIB も非常に難易度が高い試験だったのは、得点分布グラフを見ると一目瞭然である。21 年度に比べて、22 年度は成績上位者が著しく少ない。



【英語リーディング+リスニング】はなだらかな正規分布になっており実力に応じて点数が出ているようだ。努力が報われる試験である。22年度の平均点は125.0点、21年度平均点は118.5点。

【国語】は正規分布に近い波だが、22年度の平均点は112.9 点、21年度平均点は119.9 点と21年度は平均点が高いので、やや波の頂点が得点率の高いほうに動いている。国語は得点分布が正規分布になることが多い。少しでも自分の得点が低くなると全体から差が出るので、ミスなくしっかり得点することが大事である。

過去2回の大学入学共通テストの国語の設問の70%前後はセンター試験の設問を踏襲している。22年度は、新傾向の問題の解答数は9(全体では36)点数では61点(200点)だった。新傾向の設問に対応することも大事だがセンター試験レベルの設問を解く力を身に付けることは必須だ。これはすべての数科に通じることで、私立大学入試への対策ともなる。

22 年度の最大の特徴は数学の難化だが、次年度は改善されると思われる。逆の例だが 21年度の生物の平均点は 73.5 点だったが 22 年度は 49.8 点だった。

ただ、大学入試共通テストは平均点が 50%前後になるように、問題を作成すると大学入試センターは予告している。今年度は昨年度より難化し平均点は下がったが、英語、国語は、来年度はより難化する可能性がある。試験本番では、どのような問題にも対応できるよ

う、基礎力を高め、できるだけ多くの問題演習に取り組む必要がある。